

# 日韓の若者文化

任 炫 樹

帝塚山学院大学 リベラルアーツ学部 専任講師

本稿では、日本と韓国の文化、特に若者を中心にして見ていきます。サロンという名前にふさわしく皆で共感できる話題を提供したいと思います。日本から一番近い国ということもあって、韓国に行かれる方がたくさんいます。ここには韓国高麗大学へ語学研修に参加する予定の学生も話を聞きに来てくれました。渡韓する皆さんは、現地で電車やバスに乗る機会があるでしょう。バスや電車の中の光景は日本と韓国とで異なる点があります。まず、それについて述べていきます。

日本は他の文化に比べてプライバシーが重視される傾向が強いです。特に、赤の他人同士では一層そのような意識は高まります。一方、韓国ですが、最近では、昔より減りましたが、まだ地方に行きますと結構残っている風景がいくつかあります。例えば、自分は座っていて立っている人が重い荷物を持っている場合は、その見知らぬ人のかばんを持ってあげたりします。この話を若いソウルの子にしますと、最近はない話だと言うかもしれません。日本を知っている人は日本とあまり変わらないと言うでしょう。

しかし、年2回必ずソウル入りする私としては、大阪とソウルの地下鉄の中の人の風景の違いに嬉しかったり、戸惑ったりします。特にお年を召した方は、人のことをよく考えてくださいます。立っている私に席が空いたところを教えてくれたり、重い荷物は棚に上げたほうがいいとかコメントしてくれたりします。本当に人に興味の高い韓国人です。日本ではこのようなことを聞いたことも見たこともありません。韓国でこういうふうに言われたりするとうれしい反面、びっくりしたりします。

最近の韓国では、日本と同じように年配の方に席を譲らない若者がふえてきているようです。とはいえ、韓国では儒教の教えにより、長幼の序が大事にされます。電車でご年配の方が立たれていたら、若者はさっと席を譲るのが常識です。

何日か前に放送された日本のニュースによれば、近々優先席がなくなるそうです。その理由にびっくりさせられました。譲ってもらいたくないという意見が7割もありました。このニュースを接した日本の若者は、一層席を譲りにくくなるでしょう。いいことをしようとしても変に思われる可能性があるから「善は急げ」ということわざ通りになれず、迷うでしょう。

次に、お酒を飲む交流の場を想定して話を進めていきます。目上の人のお酒を飲むときは、顔を横に向けて飲みます。相手と真正面ではなく横を向いて飲みますと、控えめな行動につながります。そうすることによって、「私は目上の方のあなたを尊重していますよ」ということを相手

にアピールすることができます。

では、目上の人と接する際の手の使い方はどうでしょうか。韓国では、握手したり何かを手渡したりするとき、お酒を注ぐとき、目上の人に対しては手を添えます。手を添えるかわりに片方の手を胸に当てることもあります。自分の胸に手を当てる行為はあくまでも両手を使っているということを相手に示すことができます。

日本に来て一番びっくりしたのがこの点でした。私が学生に何かを手渡したとき、両手ではなく片手でとる人がほとんどでした。それがとてもショックでした。目上の人から、先生から何かを受け取るとき、両手ではなく片手で大丈夫な日本の文化、韓国ととても大きな違いだと思いました。韓国にこれから旅立つ学生さんもいますけれども、こういう面で気をつけていくときっと周りに好印象を与えることができるのではないのでしょうか。

次は、言語面から見ていきます。

儒教の教えが強く残っている韓国では、日本以上に敬語をよく使います。ただ日本と違うのは、目上の人には絶対的に、身内であっても尊敬語を使わなければいけないということです。例えば日本では、秘書が社長の不在を先方に知らせる場合、「ただいま社長は出かけております」と言い、身内である社長を低くし相手を敬う謙譲語で言い渡します。これを聞いた韓国のビジネスマンは、自分の目上の方を呼び捨てにする秘書を不思議に思います。さらに、「いらっしゃいません」ではなく「おりません」という表現はあり得ないと思うのです。これを、韓国式にすると「ただいま社長様はいらっしゃいません」というふうになります。反対に韓国語を知っている日本のビジネスマンが韓国に電話をかけると、自分の身内なのに何でここまで敬って話すのか、首を傾げます。しかし、お互いの文化を知っていれば誤解はなくて済みます。

次の事例も敬語にまつわる話です。韓国語の場合、初対面であっても「何歳ですか」と聞く場合が多いです。年を話題にするのは、敬語を使うべきかどうかというのを決めたいのと、年がわかると共通の話題ができるので相手と親しくなりやすいという長所があるからです。

上記で述べました若者のお酒のマナーについてもう少し語りたいと思います。お酒を飲む場合は、目上の人と面と向かって飲まない、上半身を横に捻って飲むのが常識です。言語コミュニケーションは勿論のこと、非言語コミュニケーションにも注意を払わないといけません。ここまで話だと、韓国人は目上の人を目の前にするとびりびり神経を遣うかのように思うのですが、このような緊張感を減らすいいストラテジーが存在しています。それは、冗談を言うことです。これがまた、日本の大学生と私との間でよく起こるミス・コミュニケーションの一つでもあります。私は冗談のつもりで、話しているのに、学生たちはそれをおせっかいな説教だと思ったり、気を悪くしたりします。韓国では、時にはきつい冗談が言えることは、仲がいいという証拠に繋がるのです。相手の居心地をよくするポジティブな面もあります。日本ではネガティブなことが、韓国ではポジティブに捉えられる場合があるので、日本に長い私としても冗談の使い方は非常に難しいです。

冗談を言いながら、率直に自分の本音が言える若者は私の周りに多くいます。ここにいる学生の2人は、中国から韓国、韓国から日本へ留学に来ています。この2人は私に率直にいろいろ話をしてくれるんですけども、ストレートな表現が結構混じっています。しかしながら、彼らの話に唐突だとか、生意気だと感じたことが1回もありません。それは内容はストレートながらも言語形式はとてどもフォーマルなので、目上の人を尊重してくれている言い方をしているからだと思います。率直な内容と丁寧な言語形式が合わさって、居心地をよくしてくれます。日本の大学生は、先生に親しみを込めてよくため口を使います。率直な内容とため口が一緒になると、私にはそれが異文化として感じられ、ショックを受ける場合もあります。

では、スキンシップはどうでしょうか。両文化に相違点はありますでしょうか。韓国の大学キャンパスに行きますと、男性同士で密接に座っていたり、女性同士で手をつないで歩いたり、肩や腕を組んで歩いたりするシーンを普通に見ることができます。日本の大学キャンパスでも女性同士だと腕を組んだりするシーンは見ますが、そんなに頻繁ではないです。頻度という比率はとてども大事です。韓国の大学キャンパスではよく目にする光景であり、知り合い同士で、またこれから仲よくなりたいという人を対象に行われる暗黙のルールがスキンシップなのです。ルールは色々ありますが年がはなれている場合は、年上のほうが年下に先にスキンシップをとるのが普通です。もし先生が学生の肩を叩いたり、親しみを込めてスキンシップをとったりするとしましょう。日本の大学生は、かなりびっくりするでしょうけど、韓国の大学生は居心地よさを感じます。言葉における形式、食事やお酒マナーにおきましては、一見固そうな韓国の文化ですが、冗談やスキンシップはその緊張感を和らげます。

ここで、ある韓国留学生のスキンシップについて書いたレポートの一部をご紹介します。

「日本に来て最も文化の差を感じたところがスキンシップでした。韓国も男子同士ならばスキンシップを避ける傾向はありますが、日本ほどではありません。日本人たちは身体接触をかなり嫌がるそうですが、この点が冷たい日本人のイメージを形成している一つの理由につながっているのではないかと思います。個人的には、適当なスキンシップはお互いの親密度を高めると思うので、日本人もスキンシップにもっと友好的な姿勢をとったらいいと思います。」

上記の感想を語ってくれた留学生は、来日して3カ月足らずですけども、スキンシップを好まない日本人と好む韓国人との相違に目がとまったようです。電車で座っている光景をみますと、日本人の皆さんは電車の座席に座る空間感覚がすごく広いと思いました。それは、身体接触を嫌うという要因とも関係があるでしょう。

韓国、米国、ヨーロッパなどで、初対面の場合や久しぶりに再会する場合は、握手が一番無難です。では、日本の場合はどうでしょうか。日本の場合は握手よりお辞儀をする場合が多いです。これも身体接触を嫌う一面だと思います。また、日本の方が苦手とすることがアイ・コンタクトです。アイ・コンタクトというのは、視線と視線の接触です。そういう面でお辞儀というのは、握手とアイ・コンタクトという人と人の接触を同時に避けることができる手段でもあります。こ

のような理由で、日本では握手よりお辞儀が発達しているのではないのでしょうか。

最後に取りあげたいのは長期休暇における図書館の風景です。夏休みの時、日本の大学の図書館は空いています。しかし、韓国の場合は日本と若干事情が異なります。韓国の大学生はよく図書館を利用し、勉強します。では、どうしてこんなに熱心なのでしょう。この背景には就職と深い関係があります。いい所に就職するためには、卒業証書だけでは足りない。ほかの経歴も必要だということから生まれたのが、「就職5点セット」という言葉です。「就職5点セット」とは、インターンシップ、アルバイト、資格、ボランティア活動、受賞歴を指します。コンピューター関係や英語・外国語の検定試験の資格を取るために、一生懸命に勉強をしないとイケません。どんなところでどんな経験を積んだのかについても問われます。ボランティア活動を通しては、人への配慮の気持ちを育みます。このような社会的な背景の中で韓国の大学生は、長期休み中でも勉強に励まないといけなくなるのです。私の大学時代には、図書館の席を確保するために朝から列を作りましたが、韓国留学生に聞いてみましたところ、最近は、コンピューターで操作して整理番号をとるらしいです。時代により、図書館の席のとり方は変わりましたが、社会的な背景とも絡んで、大学生の長期休みの過ごし方にはあまり変化がないようです。

以上で日韓の間で異なる文化の相違について、主に若者文化について語ってみました。似ていて異なる日韓の文化を理解し合うことで、お互いの誤解や摩擦は減ります。これからも異文化コミュニケーションを中心に研究をし続け、両文化の若者の理解の助けになれますように頑張っていきたいと思います。

本稿は2012年度帝塚山学院大学国際理解研究所主催の第13回国際理解サロンにおける講演をまとめたものである。